みやぎのだより No.123

みやぎの酪農農業協同組合広報誌

令和３年７月21日

第 72 回通常総会

CONTENTS

第72回通常総会の開催…… 1
乳質改善共励会･購買品高位利用者が表彰される… 2
有限会社岩崎牧場　新築牛舎のご紹介…… 3
第２回　乳質改善共励会　最優秀賞者のご紹介…. 5
酪農フレンズパーティーにて６組目のご成婚 … 7
乳価の推移…… 7
草地管理 除草剤散布　ギシギシ対策…… 8
飼料情勢 …… 9
令和３年度　生乳生産実績…… 10
理事会通信…… 10
売りたし、買いたし…… 11
編集後記 …… 11

第 72 回通常総会の開催

総務課

去る６月28日(月)に松島町の『ホテル松島大観荘』にて第72回通常総会を開催いたしました。

伊藤組合長はあいさつの冒頭、本日開催の通常総会の運営について、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止と組合員の皆様の健康と安全を最優先に考え、感染の機会を極力減らす為の工夫として書面による議決権の行使を奨励した上での開催となった事にご理解賜りたいと述べ、加えて本日出席の組合員に対して謝意を表しました。

伊藤組合長は挨拶の中「令和２年の豪雨や台風、また、豚熱や鳥インフルエンザと言った家畜伝染病に見舞われた方に心よりお見舞い申し上げ、被災地の復旧と新型コロナウイルス感染症の一刻も早い終息をお祈り申し上げます。本年は東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故から10年を迎えましたが、未だ故郷に戻れない方がいるなど復興は道半ばであり、当組合は、協同組合の基本理念の下、全国連や東北地域指定生乳生産者団体と連携し酪農の発展と地域の活性化を通じ被災地の復興に貢献してまいります。日本の酪農は、国内人口の減少、酪農就業者の減少、スマート農業の拡大など、急激な環境変化のなかにありますが、国内農業産出額の３分の１を占めるだけでなく、農地荒廃地を守り、景観を保全、地域社会の守り手であり、経済、文化を支え、さらには日本型食生活の栄養の視点からも牛乳･乳製品などの農畜産物は欠かせないことを消費者に理解醸成していく必要があります。令和２年度の当組合の事業は、組合員の皆様に貢献することを基本として、営農生活の安定向上を図るため、酪農所得の向上を念頭においた事業運営を行い、前年を上回る経営成績を計上することができました。このことはひとえに、組合員皆様のたゆまざる日々の生産努力と組合事業利用へのご理解と共同活動の重要性を認識いただいた賜物と感謝申し上げます。これまで以上にご利用いただけるよう規模の経済性の追求と相対的な組合利用の有利性の発揮を目指し、自らの変化を恐れず、顕在化する課題をひとつひとつ解決しながら、組合員と地域から一層必要とされるよう、そして、現場の声をよく聞きながら若い世代が夢と希望を持てる地域酪農の未来を築くため、不断の努力をしてまいる所存であります。今後も当組合に求められる基本的使命や社会的責任を念頭に役職員が共通の理念のもと、各事業に邁進してまいります。」と述べました。

議長は、大崎支部の長谷川広明氏に就任していただき、議事進行に当たり、本来であれば各議案につき提案者からの説明を求めるところ、本総会の出席状況に関して、本人出席は役員16名のみで、それ以外の組合員の本人出席がなく、全員が書面による議決権の行使である為、各議案で即刻採決の結果が報告されました。

今回の総会につきましては、組合員の皆様に書面での行使をお願いし、お陰様をもちまして全員書面での決議ができました。ありがとうございました。

今回の総会の出席状況と賛否の結果は以下のとおりです。

	議決権数	議決権の過半数等	賛　成				反　対				結果
			本人	代理	書面	合計	本人	代理	書面	合計	
第１号議案	241	121	16	0	225	241	0	0	0	0	可決
第２号議案	241	121	16	0	225	241	0	0	0	0	可決
第３号議案	241	121	16	0	225	241	0	0	0	0	可決
第４号議案	241	121	16	0	225	241	0	0	0	0	可決

総会日現在正組合員	243名
実際に出席した正組合員(役員含む)	17名
代　理　人	0名
書　　面	225名
合　　計	242名

乳質改善共励会・購買品高位利用者が表彰される

総務課

◎第２回乳質改善共励会表彰

○最優秀賞

白石・七ヶ宿支部　佐藤　剛　様

○優秀賞

栗原支部　菅原　夏江　様
鳴子支部　佐々木　純　様
蔵王支部　小島　一也　様

○優良賞

大崎支部　八巻　誠一　様
大崎支部　濱田　　茂　様
登米支部　佐藤　正敏　様
蔵王支部　阿部　賢一　様
蔵王支部　小島　健一　様
本吉支部　小野寺佑友　様

○努力賞

豊里支部　須藤　元晴　様
黒川支部　高橋　　信　様
大崎支部　佐々木昌之　様
遠田支部　佐々木貞裕　様
伊具支部　高橋　孝志　様
白石・七ヶ宿支部　佐藤　康憲　様
伊具支部　小川　淳一　様
本吉支部　三浦　鉄弥　様
遠田支部　遠藤　靖之　様
白石・七ヶ宿支部　押野　達也　様
蔵王支部　小島　桂輔　様
白石・七ヶ宿支部　片平　敬一　様
栗原支部　高橋　博文　様
豊里支部　浅野真由美　様
白石・七ヶ宿支部　㈲ファームイチカワ　様
柴田支部　吉田　敬貴　様
蔵王支部　佐藤　吉彦　様
蔵王支部　佐藤　　晃　様
登米支部　千葉　敏幸　様
栗原支部　佐藤　忠光　様
大崎支部　我妻　　正　様

◎購買品高位利用者表彰

白石・七ヶ宿支部　㈲ファームイチカワ　様
登米支部　㈱柴田牧場　様
蔵王支部　阿部　賢一　様
蔵王支部　佐藤　　晃　様
登米支部　㈱シュガーファーム　様
豊里支部　斎　　正志　様
白石・七ヶ宿支部　阿部耕太郎　様
柴田支部　柳沼美枝子　様
白石・七ヶ宿支部　齋藤　和宏　様
白石・七ヶ宿支部　鈴木　正高　様
登米支部　武田　健一　様
柴田支部　吉田　敬貴　様
蔵王支部　山家　善明　様
栗原支部　砂金甚太郎　様
仙台支部　渡邊　勇樹　様
柴田支部　小笠原良一　様
蔵王支部　大宮　　勉　様
蔵王支部　小島　桂輔　様
白石・七ヶ宿支部　佐藤　　剛　様
伊具支部　佐藤　勝彦　様
大崎支部　木村　清一　様
鳴子支部　野村　泰仁　様
蔵王支部　㈱ゼルコバドリーム　様
栗原支部　千田農場㈱　様
栗原支部　㈲小山牧場　様
白石・七ヶ宿支部　㈲蔵王プロヴァンスファーム　様
仙台支部　佐藤　正明　様
白石・七ヶ宿支部　㈱エムエスファーム　様
大崎支部　八巻　誠一　様
柴田支部　佐藤　文昭　様
仙台支部　高橋更一郎　様
蔵王支部　㈲七日原高原 佐豊牧場　様
栗原支部　伊藤　紀彦　様
栗原支部　熊谷　季喜　様
鳴子支部　片倉　正人　様
蔵王支部　佐藤　吉彦　様
仙台支部　庄子　孝喜　様
伊具支部　高山　英男　様
登米支部　佐藤　勝雄　様
白石・七ヶ宿支部　佐久間英明　様
石巻支部　塩沼　　勉　様
白石・七ヶ宿支部　木村　近雄　様
蔵王支部　伊藤　昌治　様

有限会社岩崎牧場　新築牛舎のご紹介

【牧場の概要】

遠田支部(涌谷町)の有限会社　岩崎牧場は、代表取締役の岩崎喜市さん、妻の美恵子さんの他、従業員８名と海外からの研修生８名の計18名で日々作業をしています。令和２年度、畜産･酪農収益力強化設備等特別対策事業(施設整備事業)を活用し、フリーバーン牛舎、哺育･乾乳牛舎、パーラー舎、堆肥舎を新築した他、既存牛舎を増築し５月19日より稼働を始めました。

現在、飼養頭数は経産牛621頭、子牛120頭(乳牛10頭、交雑60頭、和牛50頭)を飼養しており、日量約14㌧の生乳を出荷しています。

【牧場の歴史】

岩崎牧場は喜市さんの父が50年程前に乳牛を２頭導入したことから酪農をスタートさせ、その後、昭和47年に喜市さんが就農したのを機に30頭のつなぎ牛舎を建設し本格的に酪農経営を始めました。

平成12年には今後の規模拡大を見据え「有限会社　岩崎牧場」として法人化されました。しかし平成15年10月に牛舎が全焼する火災が発生し、飼養していた牛をすべて手離すことになり、一時酪農を休止せざるを得ない状況になりました。

この逆境の中、すぐに前を向き火災から翌年の平成16年10月に150頭のフリーバーン牛舎を新築し酪農を再スタートさせました。その後、平成18年にはフリーバーンの増築と堆肥舎の新築、さらに翌年の平成19年に第２畜舎として200頭のフリーバーン牛舎を新築され、飼養規模を500頭にまで拡大させました。そして今回、事業を活用し最大搾乳頭数1,000頭に規模拡大を図り、都府県では初めてとなる搾乳ロボットを導入し「有限会社　岩崎牧場」は県内初のギガファームとなりました。

【搾乳ロボットの導入】

規模拡大を計画するにあたり、労働負担の軽減と省人化を目指しICT機械の導入を進めました。これまで500頭の搾乳に1回６人で５時間程費やしていたため、搾乳時間の軽減は当初から計画しておりました。今回導入したロータリー型搾乳ロボットはドイツ製であり、最大40頭が一度に搾乳ができ、１周10分間で自動搾乳を行います。また、個体毎の乳量･乳質･繁殖状況などのデータをパソコンで管理ができるようになりました。この搾乳ロボットの導入により、搾乳作業は２人で３時間となり大幅に削減がなされました。

【竣功式】

先月28日には、牛舎の竣功式が行われ工事関係者や飼料会社、酪農家などの方々が出席され完成を祝いました。

挨拶で岩崎社長は、「７ヶ月という短い工期のなかでの事業がスタートし、多くの関係者に支えられながら、事故や怪我もなく無事に牛舎を完成することができた」と挨拶し関係者に感謝を申し上げました。

【今後の目標】

来年までには、400 ～ 500頭を増頭し、計画の1,000頭を目指しています。また、後継者の下村さん（娘の夫）の就農も決定しており、県内初のギガファーム「有限会社　岩崎牧場」はさらに弾みがつきました。

既に岩崎社長は今後のビジョンを計画しており将来は1,500 ～ 1,600頭の飼養頭数にまで規模拡大すると意気込みを語っておりました。

（左：岩崎社長、下村さん）

（フリーストール牛舎）

（哺育舎）

第２回　乳質改善共励会　最優秀賞者のご紹介

（左から父：宗一さん、経営者：剛さん、母：みち子さん）

第72回通常総会において、第２回乳質改善共励会の最優秀賞に輝かれた白石・七ヶ宿支部　佐藤　剛さんをご紹介いたします。

佐藤牧場の１年間の乳質検査における結果は以下の通りです。

項　　目	FAT（%）	SNF（%）	細 菌 数	細 胞 数	蛋　　白	乳　　糖	M U N
平　　均	4.18	8.85	0.48	11.0	3.43	4.44	13.43

【佐藤牧場のあゆみ】

白石市三住地区でお祖父さんが乳牛を導入し酪農が始まりました。ご両親の代に規模拡大され、平成８年に40頭対尻式牛舎を建設、キャリーレール・ミルカー自動離脱装置を導入しました。

剛さんは農業実践大学を卒業後、県内の牧場で１年間実習され平成９年に就農。現在３代目の経営者になります。

【経営概況】

佐藤牧場は、剛さんとご両親の３人で従事しており経産牛36頭、未経産牛20頭を飼養しています。

未経産牛は、近隣の牧場や組合の哺育育成センターへ預託し、分娩前に下牧させることで労働力の軽減を図っています。繁殖管理については、担当獣医の堀先生や精液業者と話し合い、輸入精液の「総合指数上位から母牛と相性の良い種雄牛リスト」を作成し、一覧の中から性判別精液を選択することで、牛群の改良と後継牛の確保に取り組んでいます。

また、佐藤牧場では理想的なルーメン発酵を促すため、配合飼料の時間や給与量を細分化し手作業で５回／日給与しています。日中も給餌作業を伴うため労働力の負担

にはなっておりますが、その分牛の観察時間が増え早期に疾病の予防や発情発見等の繁殖管理への対応が出来るとの事です。

更に、自給飼料は収穫時期ごと管理されており、そのロット毎に分析を全酪連へ依頼し、飼料設計を見直して給与しています。

【自給飼料の生産】

自給飼料は父の宗一さんが主に管理され、永年生牧草７ha、デントコーン４haを作付されています。堆肥の適正還元、化成肥料と土壌改良材の適量施用から、良質で多収量の自給飼料の生産に取り組んでいます。

【乳質改善への取り組み】

搾乳時の乳房炎の感染を防ぐため、搾乳機器は毎月メーカーの点検を受けて部品の交換や修理を行っています。搾乳作業については、前搾りや乳頭清拭、ミルカー装着のタイミングなど、基本に沿った手順を意識して取り組まれています。その中でも乳頭清拭作業に最も注意を払い、乳頭を清潔に保つため「１頭２布の乳頭清拭用タオル」を準備して拭き取り、汚れた場合は綺麗なタオルと交換しています。使用後のタオルは専用洗剤で洗濯し、脱水後は衛生的にクーラーボックスで保管されていました。

また、乳房炎の罹患率の低下と重篤化を防止するため、３年前から初妊牛への乳房炎ワクチン（スタートバック）接種を開始されています。

【最後に】

今回の取材で佐藤　剛さんは「特別なことは取り組んでない、コツコツと当たり前の作業が乳質改善に繋がった」と話されていました。また、剛さんのモットーは「当たり前のことを当たり前にやる」「牛を大切に扱う」とのことで、真面目で優しい人柄が、酪農作業に活かされていると思いました。

私生活では、毎日趣味の時間を作るそうで、良い気分転換によって楽しく酪農と向き合えているそうです。

最後に、忙しいところ取材を受けていただきありがとうございました。佐藤牧場のますますのご発展をお祈りいたします。

（牛を可愛がる剛さん）

酪農フレンズパーティーにて６組目のご成婚

指導課

加美支部の天野岩雄さんの「後継者　雄太さん」と「かつみさん」が５月８日に入籍されました。

お二人は2019年12月に開催した酪農後継者育成事業（酪農フレンズパーティー）でお知り合いになり、その後交際を始め、この度めでたくゴールインされました。

酪農フレンズパーティーをきっかけに入籍された方は、天野さんで６組目となります。

お二人の末永い健康とご多幸をお祈りいたします。

乳価の推移

販売課

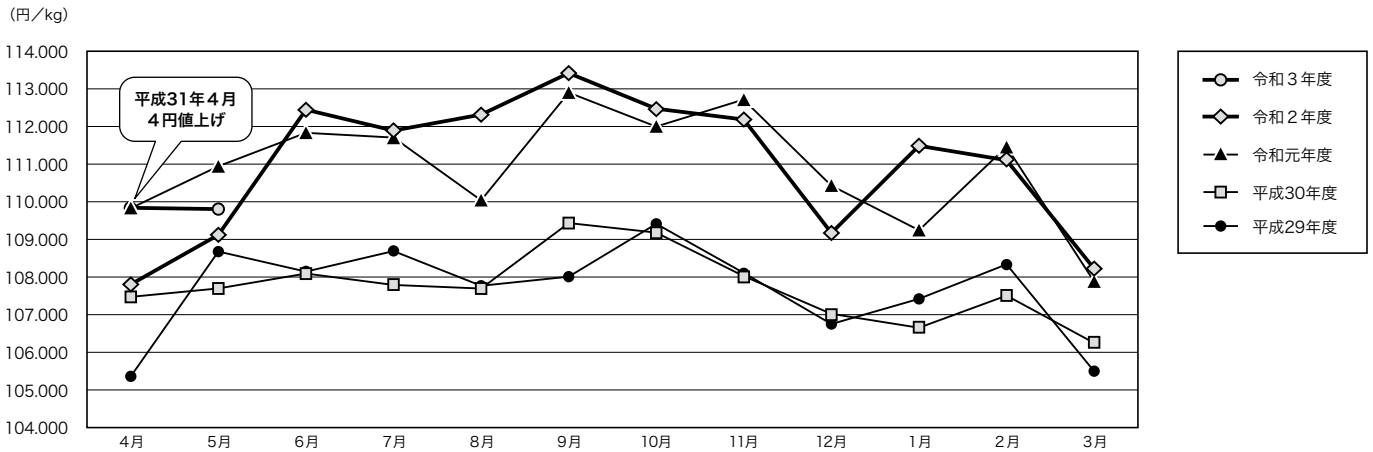
年次別・月別支払乳価一覧（補給金・集送乳調整金を含む）

（単位：円／kg）

年　度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	平均
令和３年度	109.846	109.811											109.829
令和２年度	107.822	109.121	112.471	111.912	112.340	113.452	112.498	112.208	109.173	111.505	111.119	108.218	110.987
令和元年度	109.834	110.957	111.852	111.725	110.046	112.928	112.019	112.741	110.437	109.246	111.480	107.871	110.928
平成30年度	107.462	107.688	108.086	107.781	107.685	109.437	109.182	108.016	107.009	106.636	107.496	106.229	107.726
平成29年度	105.335	108.675	108.138	108.687	107.759	108.002	109.416	108.101	106.735	107.409	108.332	105.466	107.671

※成分加算は含まない

みやぎの酪農乳価



草地管理　除草剤散布　ギシギシ対策

購買課

ギシギシ(羊蹄)はタデ科の多年草です。花言葉が「忍耐」であるように、防除には根気が必要な雑草で頭を悩ませている方も多いのではないでしょうか。

有効な除草剤としては「アージラン」、「バンベル-D」が挙げられますが、薬害の問題から使用時期が主に秋に限定されます。

今回は、秋だけではなく各番草刈取後の夏にも使える「ハーモニー 75DF」のご利用について解説させていただきます。

◆ハーモニー 75DF 登録適用内容(牧草部分抜粋)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10a 当り使用量		本 剤 の 使用回数	使用方法
				薬量	希釈水量		
牧草	牧野 草地	一年生広葉雑草 ギシギシ類	採草21日前まで (雑草生育期)	3～5g	100ℓ	1回	雑草茎葉散布 又は全面散布
		ギシギシ類	新播草地定着後 但し、採草21日前まで	0.5～1g			

＊チフェンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数は「1回」

◆対象牧草地と使用方法

①一年生牧草

➡牧草の生育期(5葉期以降)に使用して下さい(但し薬量は3～5g/10a)

②多年生牧草

新播草地➡草地定着後、雑草生育期の処理が可能です(但し薬量は0.5～1g/10a…実生のギシギシ限定)

経年草地➡一番刈取り後から最終番草刈取り後まで幅広く使用できます(但し薬量は3～5g/10a)

◆主な対象雑草(薬量は3～5g)　評価　◎極大　○大　△黄化抑制　×効果なし

一年生および越年広葉雑草							
ハコベ	◎	ヒメオドリコソウ	◎	ヒユ類	◎	オランダミミナグサ	◎
オオイヌノフグリ	◎	タデ類	◎	シロザ	○	ナズナ	○
多年生広葉雑草							
ギシギシ類	◎	オオバコ	△～×	タンポポ類	△～×	ヨモギ類	△～×

◆使用上の注意等

①ハーモニー 75DF水和剤は茎葉処理剤です、ムラなく均一に散布して下さい。

②クローバーには薬害が生じるので、使用しないで下さい。

③ギシギシ類に使用する場合には葉が展開してから使用して下さい。目安はギシギシ類の葉が「手のひらサイズ」です。

④雑草の葉色が褐変、黄変する前に使用して下さい。

⑤効果の発現は遅行的です。雑草の褐変、黒変など枯はじめが見られるまで2～3週間程度かかります。

⑥ギシギシ類が多発生している経年草地では5g/10aをお勧めします。翌春のギシギシ類の再生を抑制できます。

⑦周辺作物に影響を及ぼす可能性がありますのでドリフトには十分に注意して使用して下さい。

薬液の調製方法

あらかじめバケツなどに所定量の薬剤を水でよくとかす

次に1/3ほどの注水したタンクにとかした薬剤を入れる

所定水量まで満たしながらよくかくはんする

飼料情勢

購買課

北米コンテナ情勢

５月末の時点で全人口の約半分が１回以上のワクチン接種を受けたとされる米国では、多くの港湾作業員が荷役に復帰したことでターミナルの稼働率が向上し、沖合の滞船状況は改善の兆しが見えてきていますが、中国からの輸入は引き続き旺盛で、南西部のロサンゼルス･ロングビーチ港の混雑はまだまだ続きそうです。

他方、北西部のシアトル･タコマ港は南西部ほどの混雑は無いものの、コンテナ不足によりスケジュールが遅れており、北西部･南西部ともにもまだ１～２ヶ月程度の遅延状況が続いています。

６月も多くの船会社が海上運賃の値上げを発表しており、運賃高騰はまだまだ歯止めがかからない状態です。

輸入粗飼料

米国西海岸では昨冬の降雪不足が原因と言われる干ばつが深刻化しており、カリフォルニア州では面積の約７割が５段階の評価で２番目に悪い「極度の干ばつ」もしくは最も深刻な「類のない干ばつ」になっています。都市･農業･野生生物への影響が確実な他に、乾燥による火事の多発が懸念されています。

❶ビートパルプ（ＵＳ産）

ミシガン州では５月初旬、夜間に急激な気温の低下が生じ、凍結や霜の被害を受け、一部で再播種が必要となりましたが、ノースダコタ州やミネソタ州では問題なく生育しています。

❷アルファルファ

(A)ワシントン産

５月上旬から１番刈の収穫が始まっており、降雨被害もありましたが、その後は大きな天候の崩れもなく、長雨の影響を受けた20年産より品質は期待できそうです。

一方、穀物相場の高騰を受け、代替飼料としてアルファルファの需要は強く、産地相場は昨年より高値で推移しています。

(B)カリフォルニア産

北部では２番刈、南部では４番刈が開始されていますが、干ばつの影響により、地域によって農業用水の使用が制限されており、生産縮小を余儀なくされています。産地では連日40度を超える日が続いており、成分の低下を嫌う中国の需要は減少していますが、サウジアラビアが引き続き旺盛な買付をしているため、産地相場は堅調です。

❸チモシー

(A)ＵＳ産

主産地では６月から１番刈の収穫が始まっています。天候も良く生育は順調ですが、１番刈収穫後は換金性の高い他の穀物への転作が予想されており、２番刈以降の減収が懸念されます。

(B)カナダ産

産地では５月下旬に降雨があったため、干ばつの心配がなくなり生育状況も持ち直しています。１番刈の収穫は７月上旬頃と予想されています。

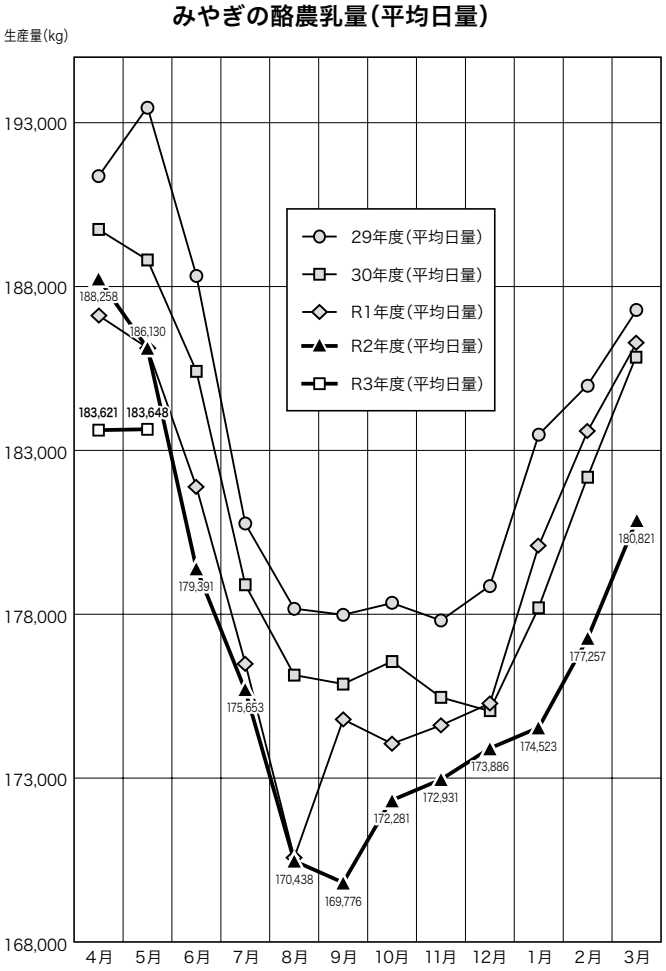
❹豪州産オーツヘイ

21年産の作付けは全体の８割以上が完了しています。前号でお伝えしたとおり、近年大口化していた中国向けの輸出が滞っており、その後も改善の兆候が見られないため、生産者は行き場を失ったオーツヘイの相場低迷を懸念し、代替として菜種や他の換金性の高い作物を作付けする動きが各地で見られました。そのため、今年度のオーツヘイの作付面積は前年比で30～50%程度減少すると予想されています。各地の生育状況は、まとまった降雨もあり、今のところ順調なようです。

令和３年度　生乳生産実績

販売課

みやぎの酪農乳量（平均日量）



令和３年度生乳生産実績（４月～５月 標準進度率16.71％）

（単位：kg、％）

支部名	戸数	バルク乳量	前年同期乳量	前年同期比	生乳出荷目標数量	進度率
白石・七ヶ宿支部	24	1,509,384.9	1,561,189.6	97.52	8,965,839.0	16.83
蔵王支部	24	1,549,759.8	1,471,836.1	103.12	8,879,064.0	17.45
柴田支部	14	687,343.0	732,301.0	98.70	3,937,489.0	17.46
伊具支部	16	816,628.0	888,032.0	94.25	4,737,268.0	17.24
仙台支部	11	634,615.1	603,177.4	97.20	3,570,877.0	17.77
名取支部	6	137,581.0	162,711.0	87.67	843,970.0	16.30
黒川支部	6	178,702.0	223,434.0	83.89	1,023,825.0	17.45
大崎支部	18	614,673.0	602,126.0	102.44	3,521,184.0	17.46
遠田支部	15	1,127,231.0	1,111,736.0	98.14	6,501,185.0	17.34
加美支部	14	355,644.0	430,942.0	98.57	2,466,487.0	14.42
鳴子支部	9	326,107.0	393,002.0	94.59	1,952,610.0	16.70
栗原支部	30	1,141,371.0	1,100,344.0	103.25	6,510,239.0	17.53
登米支部	25	1,296,529.0	1,221,806.0	98.25	7,311,753.0	17.73
本吉支部	15	276,153.0	318,751.0	94.26	1,740,591.0	15.87
石巻支部	5	132,356.0	171,257.0	96.17	811,629.0	16.31
豊里支部	10	417,650.0	425,109.0	96.86	2,460,990.0	16.97
みやぎの酪農	242	11,201,727.8	11,417,754.1	98.11	65,235,000.0	17.17

※出荷戸数については、直近の数字です。

理事会通信

総務課

【第２回理事会】

開 催 日　　令和３年５月21日
付議事項　　第１号議案　令和２年度決算監査にかかる監事監査報告について
　　第２号議案　令和２年度決算書類の承認について
　　第３号議案　通常総会の招集について
　　第４号議案　定期賞与（６月期）の支給について
　　第５号議案　株式会社みやぎの運送取締役の推薦について

【第３回理事会】

開 催 日　　令和３年６月18日
付議事項　　第１号議案　上部団体理事への推薦について

【第４回理事会】

開 催 日　　令和３年６月28日
付議事項　　第１号議案　令和２年度業務報告書の承認について
　　第２号議案　令和２年度連結業務報告書の承認について
　　第３号議案　業務執行体制の変更に伴う参事の解任について
　　第４号議案　組織に関する規程類等の一部変更について
　　第５号議案　令和３年度理事の報酬の配分について

売りたし、買いたし

指導課

【初妊牛】

No.	支　部	販 売 者	区　分	分娩予定日
1	白石・七ヶ宿支部	高橋　敦子	性判別	９月17日

【令和３年度産 １番草】

産　　地　　栗原市一迫
品　　種　　オーチャード主混播
サ イ ズ　　130×130
個　　数　　60個
価　　格　　10,000円/個
※なお、２、３番草についても販売を予定しています。

【令和２年度産 稲ワラ（敷料用）】

産　　地　　大崎市古川宮沢
サ イ ズ　　120×120
個　　数　　200個
価　　格　　3,500円/個(応相談)

［ 編 集 後 記 ］

先日発刊いたしました、「みやぎの酪農協合併20年のあゆみ」の編集に携わり、合併に至った背景と歴史を学び、「支えられて20年」という言葉に尽きると強く感じました。今後も本誌を通じて組合員の皆さまに意義ある情報をお届けしてまいります。

発 行

遠田郡美里町北浦字道祖神前16

みやぎの酪農農業協同組合

TEL.（0229）34-2311（代表）